

研究ノート

近江八幡市多賀町『太子講文書』について

西 連 寺 匠

一 近江八幡市多賀町の太子講

滋賀県近江八幡市は中世に羽柴秀次が八幡城を築き、城下は商業都市として栄えた。この地に居を構え、全国を渡り歩いて商売をする者は八幡商人と呼ばれた。この商業活動を支えたのが八幡町に工房を構える職人たちである。特に盛んであったのが製瓦業であり、同市多賀町には江戸時代後期から瓦屋がいくつも立ち並んでいた。⁽¹⁾同町のうち、特に八幡堀沿いの家は浜組と呼ばれる。現在同地域には代々瓦屋を営んでいたという伝承を持つ家が立ち並び、浜組の瓦屋や石工によって太子講が組織されていた。

太子講は平成一六年(二〇〇四)まで行われており、年中行事として愛宕神社や四天王寺の参詣、年会などを行っていた。年会では職工同士での会議が開かれるとともに、講員の間で受け継がれている聖徳太子の掛軸を拝む儀礼が行われていた。また、このほかに文

近江八幡市多賀町『太子講文書』について

政七年(一八二四)から平成一六年までの太子講の収支や行事について記した文書と、それを収めた箱が伝承されている。八幡瓦工房の太子講に関しては拙稿『八幡瓦工房の職人組織と太子信仰』⁽²⁾にて報告し、多賀町の太子講は協同組合的な性質を持ちながら、建築の祖である聖徳太子への信仰や、地域の神である日牟礼神社、防火の神である愛宕神社への信仰が見える儀式を行っていることを明らかにした。また、祖霊祭祀である百万遍が行われていることや、明治期には伊勢神宮への参詣も積極的に行うようになることも報告した。同論文では太子講で伝承される文書のうち、太子講の規定について書かれた『太子講定帳』と文書が納められていた箱の墨書についてのみ取り上げている。

本稿では、前掲の論文では取り上げていない文書について報告し、太子講の実相を明らかにするとともに、文政七年から平成一六年の間で太子講がどのように変化したのかをまとめる。

二 太子講文書について

太子講で受け継がれている文書は大きく三種類に分類でき、①太子講の定めを記した文政七年の『太子講定帳』と、②太子講の毎年の行事や収支について記した帳簿、③相撲や伊勢参宮といった特別な行事について記した文書がある。年間の行事を記した文書につい

近江八幡市多賀町『太子講文書』について

では文政七年から平成一六年までの太子講の行事が途切れることなく記録されている。文書の一覧は（表１）の通りである。本稿では②に分類される帳簿について詳細を取り上げる。

番号	表題	年代（和暦）	西暦
1	太子講定帳	文政 7 年	1824 年
2	太子講	文政 7 年 ～ 天保 2 年	1824 年 ～ 1831 年
3	太子講之帳	天保 3 年 ～ 天保 9 年	1832 年 ～ 1838 年
4	太子講之帳	天保 10 年 ～ 嘉永 6 年	1839 年 ～ 1853 年
5	相撲芝居花割合控帳	嘉永 3 年 ～ 明治 3 年	1850 年 ～ 1870 年
6	太子講	嘉永 6 年 ～ 元治 2 年	1853 年 ～ 1865 年
7	太子講順番	慶応元年 ～ 明治 7 年	1865 年 ～ 1874 年
8	相撲芝居花割合控帳	明治 6 年 ～ 明治 15 年	1873 年 ～ 1882 年
9	太子講宿順番帳	明治 7 年 ～ 明治 20 年	1874 年 ～ 1887 年
10	太子講宿順番帳	明治 21 年 ～ 明治 38 年	1888 年 ～ 1905 年
11	伊勢参宮大神宮講	明治 22 年 ～ 昭和 14 年	1889 年 ～ 1939 年
12	太子講宿順番帳	明治 39 年 ～ 大正 10 年	1906 年 ～ 1921 年
13	太子講宿順番帳	大正 11 年 ～ 昭和 15 年	1922 年 ～ 1940 年
14	太子講宿順番帳	昭和 16 年 ～ 昭和 31 年	1941 年 ～ 1956 年
15	太子講宿順番帳	昭和 32 年 ～ 昭和 51 年	1957 年 ～ 1976 年
16	太子講宿順番帳	昭和 52 年 ～ 平成 2 年	1977 年 ～ 1990 年
17	太子講宿順番帳	平成 3 年 ～ 平成 16 年	1991 年 ～ 2004 年

（表 1）太子講文書一覧 ③

帳簿の内容を見ると、当屋、行事の参加者（参加人数）、講の資金の使途、収支報告が主となっている。また、年によっては代参の参詣先と当番の名前を記載している。（表 2）は文政七年から平成一六年までの帳簿を項目ごとにまとめたものである。表の項目は文

書名、年代、当屋、行事の参加者、人数を記載した。また、特別な記載があるものは備考欄に記した。

文書名	年(和暦)	年(西暦)	月日	宿・守	講員	講員数	備考
『太子講定帳』	文政 7 年	1824 年			九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
『太子講』			5 月 21 日	九兵衛	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
	7 月 17 日	伝兵衛	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7			
	文政 8 年	1825 年	1 月 14 日	仁兵衛	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			1 月 24 日	与左衛門	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			5 月 22 日	庄助	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			7 月 17 日	平四郎	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
	文政 9 年	1826 年	1 月 14 日	吉兵衛	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			24 日	九兵衛	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			5 月	伝兵衛	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			7 月 17 日	仁兵衛	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
	文政 10 年	1827 年	1 月 14 日	与左衛門	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			24 日	庄助	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			5 月 22 日	吉兵衛	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			7 月 17 日	平四郎	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
	文政 11 年	1828 年	1 月 14 日	九兵衛	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			1 月 24 日	伝兵衛	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			5 月 22 日	仁兵衛	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
			7 月 17 日	与左衛門	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
	文政 12 年	1829 年	5 月 22 日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助	6	
			7 月 17 日	九兵衛	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	7	
	文政 13 年	1830 年	1 月 14 日	与左衛門	伝兵衛、仁兵衛、庄助、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
			1 月 24 日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
			5 月 25 日	仁兵衛	与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛、九兵衛、伝兵衛	7	
			7 月 17 日	庄助	平四郎、吉兵衛、九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
	天保 2 年	1831 年	1 月 14 日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助	7	
			1 月 24 日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
			5 月 22 日	九兵衛	庄助、伝兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	6	
			7 月 17 日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
			8 月 6 日	仁兵衛			順応寺宝物開帳
『太子講之帳』			1 月 14 日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	

『太子講之帳』	天保 3 年	1832 年	1 月 24 日		平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
			5 月 22 日		吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
			7 月 17 日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	
	天保 4 年	1833 年	1 月 14 日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
			1 月 24 日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
			5 月 21 日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	
			7 月 17 日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
	天保 5 年	1834 年	1 月 15 日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
			1 月 14 日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、平四郎、与左衛門	7	
			5 月 22 日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	
			7 月 17 日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
	天保 6 年	1835 年	1 月	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	左義長
			1 月 24 日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	
			5 月 21 日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
			百万遍	九兵衛			
			7 月 17 日	吉兵衛	平四郎、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
	天保 7 年	1836 年	1 月 14 日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
			1 月 24 日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	
			5 月	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
			7 月 17 日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
	天保 8 年	1837 年	1 月 14 日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	
			1 月 24 日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
			4 月 6 日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、与左衛門、仁兵衛	7	百万遍
			5 月 22 日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
			7 月 17 日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
	天保 9 年	1838 年	1 月 14 日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	
			1 月 24 日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
			5 月 21 日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	
			7 月 17 日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
	天保 10 年	1839 年	1 月 14 日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
			1 月 24 日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
			5 月 25 日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	

		7月17日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
天保11年	1840年	1月14日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
		1月24日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	
		5月21日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
		7月17日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
天保12年	1841年	1月14日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
		1月24日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	
		5月22日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
		7月17日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
天保13年	1842年	1月14日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
		1月24日	仁兵衛	伝兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
		5月22日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
		7月17日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
天保14年	1843年	1月14日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
		1月24日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	
		5月22日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
		7月17日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
天保15年	1844年	1月14日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
		1月24日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
		5月22日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	
		7月17日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
弘化2年	1845年	1月	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	
		1月24日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
		5月22日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
		7月17日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
弘化3年	1846年	1月14日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	
		1月24日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
		5月21日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
		7月17日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	
弘化4年	1847年	1月14日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
		1月24日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、庄助、九兵衛	7	
		5月29日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	

『太子講』		7月17日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
	弘化5年	1月14日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
	嘉永元年	1月24日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
		5月21日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
	嘉永2年	7月17日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
		1月14日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	
		1月24日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	7	
		5月21日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
	嘉永3年	7月17日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
		1月14日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛	7	
		1月24日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	
		5月23日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	7	
	嘉永4年	7月17日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、作兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	8	
		1月14日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、作兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	8	
		1月24日	吉兵衛	作兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	8	
		5月24日	作兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	
	嘉永5年	7月17日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、作兵衛、庄助、九兵衛	8	
		1月14日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、作兵衛、九兵衛	8	
	嘉永6年	1月24日	仁兵衛	庄助、伝兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、作兵衛、九兵衛	8	
		1月14日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、作兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	8	
	嘉永7年	1月24日	平四郎	吉兵衛、作兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	8	
		1月14日	吉兵衛	作兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、	8	ノ八軒
	安政2年	1月24日	作兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	
		1月14日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、作兵衛	8	
	安政3年	1月24日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、作兵衛、九兵衛	8	
		1月14日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、作兵衛、九兵衛、庄助	8	
	安政4年	24日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、作兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	8	
		1月14日	仁兵衛	与左衛門、平四郎、吉兵衛、作兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛	8	
		1月24日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、作兵衛	8	
	安政5年	7月17日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助	7	作兵衛なしノ七件
		1月14日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	7	
	安政5年	1月24日	磯八	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	

		7月17日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、磯八、九兵衛	8	
安政 6 年	1859 年	1月14日	仁兵衛	与左衛門、庄助、伝兵衛、九兵衛、磯八、平四郎、吉兵衛	8	
		1月24日	伝兵衛	庄助、九兵衛、磯八、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	
		7月17日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、磯八、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	8	
安政 7 年	1860 年	1月14日	平四郎	吉兵衛、磯八、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	8	
		1月24日	吉兵衛	磯八、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	8	
万延 元年		7月17日	磯八	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	
万延 2 年	1861 年	1月14日	九兵衛	伝兵衛、庄助、仁兵衛、与左衛門、磯八、平四郎、吉兵衛	8	
		1月24日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、磯八、九兵衛	8	
文久 元年		7月17日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、九兵衛、庄助	7	ノ七軒
文久 2 年	1862 年	1月14日	仁兵衛	伝兵衛、庄助、九兵衛、平四郎、吉兵衛、与左衛門	7	
		1月24日	平四郎	吉兵衛、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	7	
		7月17日	吉兵衛	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	7	
文久 3 年	1863 年	1月14日	安治郎	伝兵衛、庄助、九兵衛、仁兵衛、平四郎、与左衛門、吉兵衛	8	
		1月24日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、藏安、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	8	
		7月17日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、藏安、九兵衛	8	
文久 4 年	1864 年	1月14日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、藏安、九兵衛、庄助	8	
		1月24日	九兵衛	伝兵衛、庄助、仁兵衛、安治郎、平四郎、与左衛門、吉兵衛	8	
元治 元年		7月17日	仁兵衛	伝兵衛、庄助、九兵衛、安治郎、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	
元治 2 年	1865 年	1月14日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、安治郎、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	8	
		1月24日	平四郎	与左衛門、仁兵衛、伝兵衛、庄助、九兵衛、安治郎、吉兵衛	8	
慶応 元年		7月17日	吉兵衛	平四郎、与左衛門、仁兵衛、伝兵衛、庄助、九兵衛、安治郎	8	
慶応 2 年	1866 年	1月14日	安治郎	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、庄助	8	
		1月24日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、安治郎、九兵衛	8	
		7月17日	九兵衛	庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、藏安	8	
慶応 3 年	1867 年	1月14日	伝兵衛	仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、藏安、九兵衛、庄助	8	
		1月24日	仁兵衛	庄助、伝兵衛、九兵衛、与左衛門、安治郎、平四郎、吉兵衛	8	
		7月17日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、藏安、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛	8	
慶応 4 年	1868 年	1月15日	平四郎	仁兵衛、与左衛門、庄助、伝兵衛、安治郎、九兵衛、吉兵衛	8	
		1月24日	吉兵衛	安治郎、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	8	
		7月17日	安治郎	伝兵衛、九兵衛、庄助、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	
		1月14日	庄助	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、安治郎、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	

太子講宿順番帳	明治 2 年	1869 年	1 月 24 日	九兵衛	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、安治郎、庄助	8	
			7 月 17 日	伝兵衛	仁兵衛、平四郎、吉兵衛、安治郎、九兵衛、庄助、与左衛門	8	
	明治 3 年	1870 年	1 月 14 日	仁兵衛	伝兵衛、庄助、九兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、安治郎	8	
			1 月 24 日	与左衛門	仁兵衛、伝兵衛、庄助、九兵衛、安治郎、平四郎、吉兵衛	8	
			7 月 24 日	平四郎	吉兵衛、安治郎、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門	8	
	明治 4 年	1871 年	1 月 14 日	吉兵衛	平四郎、与左衛門、仁兵衛、伝兵衛、庄助、九兵衛、安治郎	8	
			1 月 24 日	安治郎	九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、庄助、平四郎、吉兵衛	8	
			7 月 17 日	九兵衛	庄助、伝兵衛、安二郎、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	
	明治 5 年	1872 年	1 月 14 日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛、安治郎、九兵衛	8	
			1 月 24 日	伝兵衛	庄助、九兵衛、仁兵衛、安治郎、平四郎、与左衛門、吉兵衛	8	
			7 月 17 日	仁兵衛	伝兵衛、庄助、九兵衛、安治郎、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	
	明治 6 年	1873 年	2 月 14 日	与左衛門	平四郎、吉兵衛、安治郎、九兵衛、庄助、仁兵衛、伝兵衛	8	
			2 月 24 日	吉兵衛	安治郎、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	8	
			9 月 17 日	庄助	伝兵衛、九兵衛、安治郎、仁兵衛、与左衛門、平四郎、吉兵衛	8	
	明治 7 年	1874 年	1 月 14 日	安治郎	与左衛門、仁兵衛、伝兵衛、庄助、九兵衛、吉兵衛、平四郎	8	
			1 月 24 日	九兵衛	庄助、伝兵衛、安治郎、仁兵衛、与兵衛、平四郎、吉兵衛	8	
			8 月 17 日	伝兵衛	庄助、九兵衛、熊吉、伝兵衛、安治郎、仁兵衛、与兵衛、平四郎、吉兵衛	9	
	明治 8 年	1875 年	1 月 14 日	仁兵衛	伝兵衛、庄助、九兵衛、熊吉、安治郎、平四郎、与左衛門、吉兵衛	9	
			1 月 24 日	与左衛門	吉兵衛、安治郎、九兵衛、熊吉、庄助、伝兵衛、仁兵衛、平四郎	9	
			9 月 20 日	吉兵衛	平四郎、与左衛門、仁兵衛、伝兵衛、庄助、九兵衛、熊吉、安治郎	9	
	明治 9 年	1876 年	2 月 14 日	安治郎	九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、熊吉、吉兵衛	9	
			2 月 24 日	熊治郎	庄助、九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎、安治郎、吉兵衛	9	
			8 月 17 日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、吉兵衛、平四郎、与左衛門、安治郎、熊治郎、九兵衛	9	
	明治 10 年	1877 年	2 月 14 日	伝兵衛	庄助、九兵衛、熊吉、仁兵衛、与左衛門、安治郎、平四郎、吉兵衛	9	
			2 月 24 日	仁兵衛	与左衛門、庄助、九兵衛、熊吉、平四郎、安治郎、吉兵衛、伝兵衛	9	
			10 月 11 日	与左衛門	九兵衛	9	
	明治 11 年	1878 年	1 月 14 日	吉兵衛	安治郎、熊吉、九兵衛、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、平四郎	9	
			5 月 3 日	平四郎	仁兵衛、伝兵衛、庄助、九兵衛、熊吉、安治郎、吉兵衛、与左衛門	9	
			8 月 17 日	安治郎	熊吉、庄助、九兵衛、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、吉兵衛	8	
	明治 12 年	1879 年	1 月 14 日	熊吉	庄助、伝兵衛、九兵衛、仁兵衛、安治郎、幸助、吉兵衛、福二郎	9	
			1 月 24 日	庄助	熊吉、伝兵衛、九兵衛、安治郎、幸助、仁兵衛、吉兵衛、与左衛門	9	
			8 月 17 日	伝兵衛	庄助、九兵衛、熊吉、仁兵衛、与左衛門、安治郎、平四郎、吉兵衛	9	

太子講宿順番帳	明治 13 年	1880 年	1 月 14 日	仁兵衛	〆九軒	9	
			1 月 24 日	与左衛門	〆九軒	9	
			7 月 17 日	西川与三吉	与左衛門、仁兵衛、伝兵衛、庄助、九兵衛、安治郎、平四郎、吉兵衛、熊吉	10	
	明治 14 年	1881 年	1 月 14 日	平四郎	与三吉、与左衛門、仁兵衛、伝兵衛、庄助、熊吉、九兵衛、安治郎、吉兵衛	10	
			1 月 24 日	吉兵衛	平四郎、与三吉、与左衛門、仁兵衛、伝兵衛、庄助、九兵衛、熊吉、安治郎	10	
			8 月 17 日	長八	吉兵衛、平四郎、安治郎、与三吉、与左衛門、仁兵衛、伝兵衛、庄助、熊吉、九兵衛	11	
	明治 15 年	1882 年	1 月 14 日	安治郎	熊吉、庄助、伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、与三吉、平四郎、吉兵衛、長八、九兵衛	11	
			1 月 24 日	熊吉	庄助、伝兵衛、九兵衛、仁兵衛、与左衛門、与三吉、平四郎、吉兵衛、長八、安治郎	11	
			7 月 17 日	庄助	伝兵衛、仁兵衛、与左衛門、与三吉、平四郎、吉兵衛、長八、安治郎、熊吉、九兵衛	11	
	明治 16 年	1883 年	1 月 14 日	伝兵衛	庄助、熊吉、仁兵衛、与左衛門、与三吉、平四郎、吉兵衛、長八、安治郎、九兵衛	11	
			1 月 24 日	西川与左衛門	前田幸助、和田吉兵衛、福井安治郎、瓦屋九兵衛、かしや熊吉、佐竹庄蔵、山田伝兵衛、寺本仁兵衛、西川与三吉、中村長八	11	
			7 月 17 日	仁兵衛	伝兵衛、庄助、熊吉、安治郎、長右衛門、吉兵衛、幸助、与三吉、与左衛門、九兵衛	11	
	明治 17 年	1884 年	1 月 14 日	西川与左衛門	〆拾軒	10	
			1 月 24 日	前田幸輔	〆拾軒	10	
			7 月 17 日	和田吉兵衛	〆拾軒	10	
	明治 18 年	1885 年	1 月 15 日	西川長八	〆拾軒	10	
			1 月 24 日	安治郎	〆拾軒	10	
			7 月 17 日	島内熊治郎	〆拾軒	10	
	明治 19 年	1886 年	1 月 14 日	佐竹庄造	〆拾軒	10	
			1 月 24 日	山田伝兵衛	〆拾軒	10	
			7 月 17 日	仁兵衛	〆拾軒	10	
	明治 20 年	1887 年	1 月 14 日	与左衛門			
			1 月 24 日	西川与左衛門	〆拾軒	10	
			8 月 17 日	前田幸助	〆拾軒	10	
	明治 21 年	1888 年	1 月 15 日	和田吉兵衛	〆拾軒	10	
			1 月 24 日	西川長右衛門	〆拾軒	10	
			8 月 17 日	福井安治郎	〆拾軒	10	
	明治 22 年	1889 年	1 月 15 日	島内熊治郎	合計拾軒	10	
			1 月 24 日	佐竹庄造	外九名	10	
			8 月 17 日	山田伝兵衛	外九名	10	
	明治 23 年	1890 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外九名	10	
			1 月 24 日	西川与左衛門	外九名	10	
			8 月 17 日	西川与三吉	外九名	10	
	明治 24 年	1891 年	1 月 14 日	前田幸助	外九名	10	
			1 月 24 日	当屋差支御座候			
			2 月 16 日	和田吉兵衛	外九名	10	
8 月 17 日			西川長右衛門	外九名	10		
			1 月 14 日	福井安治郎			

太子講宿順番帳	明治 25 年	1892 年	1 月 24 日	島内熊治郎	外九名	10	
			8 月 17 日	佐竹庄造	外九名	10	
	明治 26 年	1893 年	1 月 14 日	山田伝兵衛	〆拾人	10	
			1 月 24 日	仁兵衛			
	明治 27 年	1894 年	8 月 17 日	西川与左衛門	外八名	9	
			1 月 14 日	西川与曾吉			
			1 月 24 日	前田幸助			
	明治 28 年	1895 年	8 月 17 日	和田吉兵衛			
			1 月 14 日	西川長右衛門			
			1 月 24 日	島内熊治郎			
	明治 29 年	1896 年	8 月 17 日	佐竹庄造			
			1 月 14 日	山田五郎左衛門	外八名	9	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛			
	明治 30 年	1897 年	8 月 17 日	西川与左衛門			
			1 月 14 日	西川与惣吉			
			1 月 24 日	前田幸助	外八名	9	
	明治 31 年	1898 年	8 月 17 日	和田吉兵衛	外八名	9	
			1 月 14 日	西川与左衛門	外八名	9	
			1 月 24 日	島内熊治郎	外八名	9	
	明治 32 年	1899 年	8 月 17 日	佐竹庄造	外八名	9	
			1 月 14 日	山田五郎左衛門	外八名	9	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛	外八名	9	
	明治 33 年	1900 年	8 月 17 日	西川与左衛門	外八名	9	
			1 月 14 日	西川与三吉	外八名	9	
			1 月 24 日	前田平四郎	外八名	9	
	明治 34 年	1901 年	8 月 17 日	和田吉兵衛	外八名	9	
			1 月 14 日	西川長右衛門	外八名	9	
			1 月 24 日	島内亀吉	外八名	9	
	明治 35 年	1902 年	8 月 17 日	佐竹庄造	外八名	9	
			1 月 14 日	山田伝造	外八名	9	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛	外八名	9	
	明治 36 年	1903 年	8 月 17 日	西川与左衛門	外八名	9	
			1 月 14 日	西川与三吉	外八名	9	
			1 月 24 日	前田平四郎	外八名	9	
	明治 37 年	1904 年	8 月 17 日	和田吉兵衛	外八名	9	
			1 月 14 日	西川長右衛門	外八名	9	
			1 月 24 日	島内亀吉	外八名	9	
	明治 38 年	1905 年	8 月 17 日	佐竹庄造	外八名	9	
			1 月 14 日	山田伝藏	外八名	9	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛	外八名	9	
	明治 39 年	1906 年	8 月 17 日	西川与左衛門	外八名	9	
			1 月 14 日	前田与三吉	外八名	9	
			1 月 24 日	前田平四郎	外八名	9	
	明治 40 年	1907 年	18/17	和田吉兵衛	外八名	9	
			1 月 17 日	西川長右衛門	外七名	8	
			1 月 24 日	島内亀次郎	外八名	9	

近江八幡市多賀町「太子講文書」について

		8月17日	佐竹庄造	外八名	9	
		1月14日	山田伝造	外八名	9	
明治41年	1908年	1月24日	寺本仁兵衛	外八名	9	
		8月17日	西川与左衛門	外七名	8	
		1月14日	前田平四郎	外七名	8	
明治42年	1909年	1月24日	和田吉兵衛	外六名	7	
		5月17日	西川長右衛門	外七名	8	
		1月14日	島内亀吉	外七名	8	
明治43年	1910年	1月24日	佐竹庄造	外七名	8	
		4月28日	山田伝造	外七名	8	
		1月14日	寺本仁兵衛	外七名	8	
明治44年	1911年	1月24日	西川与左衛門	外七名	8	
		5月17日	前田平四郎	外七名	8	
		1月14日	和田吉兵衛	外七名	8	
明治45年	1912年	1月24日	西川長藏	外七名	8	
		5月17日	島内亀吉			
		1月14日	佐竹庄造	外七名	8	
大正2年	1913年	1月24日	山田伝兵衛	外七名	8	
		6月17日	寺本仁兵衛	外七名	8	
		1月14日	西川与左衛門	外七名	8	
大正3年	1914年	1月24日	前田平四郎	外七名	8	
		5月17日	和田吉兵衛	外七名	8	
		1月14日	西川長藏	外七名	8	
大正4年	1915年	2月24日	島内亀次郎	外七名	8	
		5月17日	佐竹庄造	外七名	8	
		1月14日	山田伝藏	外六名	7	
大正5年	1916年	1月24日	寺本仁兵衛	外六名	7	
		5月17日	前田平四郎	外六名	7	
		1月14日	和田吉兵衛	外六名	7	
大正6年	1917年	1月24日	西川長藏	外六名	7	
		5月17日	島内亀吉	外六名	7	
		1月14日	佐竹庄造	外六名	7	
大正7年	1918年	1月24日	山田伝藏	外六名	7	
		5月17日	寺本仁兵衛	外六名	7	
		1月14日	前田平四郎	外五名	6	
大正8年	1919年	1月24日	和田吉兵衛	外五名	6	
		5月17日	島内亀次郎			
		1月14日	佐竹庄造	外五名	6	
大正9年	1920年	1月24日	中川九衛門	外五名	6	
		5月17日	寺本仁兵衛			
		1月14日	和田吉兵衛	外五名	6	
大正10年	1921年	1月14日	島内亀吉	外五名	6	
		5月17日	前田平四郎	外五名	6	
太子講宿順番帳		1月14日	佐竹庄造	外四名	5	
	大正11年	1922年	1月24日	寺本仁兵衛	5	
		5月17日	前田平四郎	外四名	5	

太子講宿順番帳	大正 12 年	1923 年	1 月 14 日	和田吉兵衛	外四名	5	
			1 月 24 日	島内亀吉	外四名	5	
	大正 13 年	1924 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外四名	5	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛	外四名	5	
	大正 14 年	1925 年	1 月 14 日	前田平四郎	外四名	5	
			1 月 24 日	和田吉兵衛	外四名	5	
	大正 15 年	1926 年	1 月 14 日	島内亀次郎	外四名	5	
			1 月 24 日	佐竹庄造	外四名	5	
	昭和 2 年	1927 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外四名	5	
			1 月 24 日	前田平四郎	外四名	5	
	昭和 3 年	1928 年	1 月 14 日	和田吉兵衛	外四名	5	
			1 月 14 日	島内亀吉	外四名	5	
	昭和 4 年	1929 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三名	4	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 5 年	1930 年	1 月 14 日	前田平四郎	外三名	4	
			1 月 24 日	和田吉兵衛	外三名	4	
	昭和 6 年	1931 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三名	4	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 7 年	1932 年	1 月 14 日	前田平四郎	外三名	4	
			1 月 24 日	和田吉兵衛	外三名	4	
	昭和 8 年	1933 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三名	4	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 9 年	1934 年	1 月 14 日	和田吉兵衛	外三名	4	
			1 月 24 日	前田平四郎	外三名	4	
	昭和 10 年	1935 年	1 月 14 日	佐竹弥藏	外三名	4	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 11 年	1936 年	1 月 14 日	前田平四郎	外三名	4	
			1 月 24 日	和田吉兵衛	外三名	4	
	昭和 12 年	1937 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三名	4	
			1 月 24 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 13 年	1938 年	1 月 14 日	前田平四郎	外二名	4	
	昭和 14 年	1939 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三名	4	
	昭和 15 年	1940 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 16 年	1941 年	1 月 14 日	前田平四郎	外三名	4	
	昭和 17 年	1942 年	1 月 14 日	中川磯吉	外三名	4	
	昭和 18 年	1943 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三名	4	
	昭和 19 年	1944 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 20 年	1945 年	1 月 24 日	前田平四郎	外三名	4	
	昭和 21 年	1946 年	1 月 6 日	中川磯吉	外三人	4	
	昭和 22 年	1947 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三名	4	代参ハ当中止之事
	昭和 23 年	1948 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 24 年	1949 年	1 月 14 日	前田平四郎	外三名	4	
	昭和 25 年	1950 年	1 月 14 日	中川磯吉	外三名	4	
	昭和 26 年	1951 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三人	4	
	昭和 27 年	1952 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 28 年	1953 年	1 月 14 日	前田平四郎	外三人	4	
	昭和 29 年	1954 年	1 月 14 日	中川磯吉	外三人	4	

近江八幡市多賀町「太子講文書」について

	昭和 30 年	1955 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三人	4	
	昭和 31 年	1956 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外三人	4	
太子講宿順番帳	昭和 32 年	1957 年	1 月 14 日	前田平四郎	外三人	4	
	昭和 33 年	1958 年	1 月 14 日	中川磯吉	外三人	4	
	昭和 34 年	1959 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三人	4	
	昭和 35 年	1960 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外三人	4	
	昭和 36 年	1961 年	1 月 14 日	前田平四郎	外三人	4	
	昭和 37 年	1962 年	1 月 24 日	中川磯吉	外三名	4	
	昭和 38 年	1963 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外三名	4	
	昭和 39 年	1964 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 40 年	1965 年	1 月 14 日	前田平四郎	外四名	5	
	昭和 41 年	1966 年	1 月 14 日	中川磯吉	外四名	5	
	昭和 42 年	1967 年	1 月 14 日	大倉末吉	外四名	5	
	昭和 43 年	1968 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外四名	5	
	昭和 44 年	1969 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外四名	5	
	昭和 45 年	1970 年	1 月 14 日	前田平四郎	外四名	5	
	昭和 46 年	1971 年	1 月 24 日	中川磯吉	外四名	5	
	昭和 47 年	1972 年	1 月 14 日	大倉末吉	外四名	5	
	昭和 48 年	1973 年	1 月 14 日	佐竹庄造	外四名	5	
	昭和 49 年	1974 年	1 月 14 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 50 年	1975 年	1 月 15 日	前田平四郎	外三名	4	
	昭和 51 年	1976 年	1 月 14 日	中川磯吉	外三名	4	二月七日総参り
太子講宿順番帳	昭和 52 年	1977 年	1 月 14 日	大倉末吉	外三名	4	
	昭和 53 年	1978 年	1 月 15 日	寺本仁兵衛	外三名	4	
	昭和 54 年	1979 年	1 月 13 日	前田平四郎	外三名	4	
			4 月 18 日	聖徳太子総参り			
	昭和 55 年	1980 年	1 月 15 日	中川太三郎	外三名	4	
	昭和 56 年	1981 年	1 月 14 日	大倉和夫	外三名	4	
	昭和 57 年	1982 年	1 月 14 日	前田平四郎	外三名	4	
	昭和 58 年	1983 年	1 月 14 日	寺本雅男			
	昭和 59 年	1984 年	1 月 15 日	中川太三郎	外三名	4	
	昭和 60 年	1985 年	1 月 13 日	大倉和夫	外三名	4	
	昭和 61 年	1986 年	1 月 14 日	前田幸一郎	外三名	4	
	昭和 62 年	1987 年	1 月 15 日	寺本嘉男	外三名	4	
	昭和 63 年	1988 年	1 月 15 日	中川太三郎	外三名	4	
	平成 元 年	1989 年	1 月 14 日	大倉和夫	外三名	4	初太子参詣 四名参加
	平成 2 年	1990 年	1 月 14 日	前田幸一郎	外三名	4	
太子講宿順番帳	平成 3 年	1991 年	1 月 15 日	寺本嘉男	外三名	4	
	平成 4 年	1992 年	1 月 15 日	中川太三郎	外三名	4	
	平成 5 年	1993 年	1 月 15 日	大倉和夫	外三名	4	
	平成 6 年	1994 年	1 月 15 日	前田幸一郎	外三名	4	
	平成 7 年	1995 年	1 月 15 日	寺本嘉男	外三名	4	御軸直し祈禱料・御軸直し料前後二回
	平成 8 年	1996 年	1 月 15 日	中川太三郎	外三名	4	
	平成 9 年	1997 年	1 月 14 日	大倉和夫	外二名	3	
	平成 10 年	1998 年	2 月 1 日	前田幸一郎	外二名	3	
	平成 11 年	1999 年	1 月 15 日	中川太三郎	外二名	3	

平成12年	2000年	1月9日	大倉和夫	外二名	3	
平成13年	2001年	1月16日	前田幸一郎	外二名	3	
平成14年	2002年	1月14日	中川太三郎	外二名	3	
平成15年	2003年	1月14日	大倉和夫	外二名	3	
平成16年	2004年	1月18日	前田幸一郎	外二名	3	

(表2) 太子講文書の年代と講員

まず、月日の欄を見ると、文政七年から嘉永四年（一八五一）までは文政一二年を除き毎年四回の集会行っている。この四回の集会については『太子講定帳』に説明があり、一月一四日の左義長、一月二四日の愛宕神社参詣、五月二二日の太子講、七月一七日の百万遍であることが分かる。嘉永五年（一八五二）から安政三年（一八五六）までは一月一四日と一月二四日の年二回となる時期が続く、翌年から大正十一年（一九二二）の間は明治二四年（一八九一）を除き年三回の集会が行われている。その後、大正一二年から昭和十二年（一九三七）は左義長と愛宕神社参詣のみとなり、昭和十三年（一九三八）から平成一六年の間は一月一日前後の時期に年一回集会を行っている。次に当屋の項目を見ていくと、文政七年から文政十一年（一八二八）までは九兵衛―伝兵衛―仁兵衛―与左衛門―庄助―平四郎―吉兵衛の順で当屋が順番に巡っている。その後は講員の増減もあるため、規則性は失われる

が、一度当屋になるとしばらくは当屋にならないよう配慮されていることが推察される。聞き取りを行うと、当屋は話し合いで決定しており、家に不幸事があった場合は当屋を避けていたという。講員の名前を見ていく。明治十三年（一八八〇）から一部の講員に苗字が表記される。また、年によっては講員の職業も併記されていた。この内容とともに、聞き取り調査で判明したことをまとめたものが(表3)である。表は文書に記録されている順で名前を記載した。

番号	名前	職業
1	九兵衛	瓦屋
2	山田伝兵衛	瓦屋
3	寺本仁兵衛	瓦屋
4	西川与左衛門	石屋
5	庄助	瓦屋
6	前田平四郎	瓦屋
7	和田吉兵衛	瓦屋
8	作兵衛	瓦屋
9	磯八	不明
10	蔵安	不明
11	福井安治郎	瓦屋
12	中村長八	不明
13	佐竹庄造	瓦屋
14	島内熊治郎	不明
15	前田幸助	瓦屋
16	西川長右衛門	不明
17	西川与三吉（与曾吉、与惣吉）	不明
18	島内亀次郎（亀治郎）	瓦屋
19	山田五郎左衛門	圓滿寺僧侶か
20	山田伝蔵（伝造）	圓滿寺僧侶か
21	西川長蔵	不明
22	島内亀吉	瓦屋
23	佐竹弥蔵	瓦屋
24	中川磯吉	燃料屋
25	大倉末吉	大工
26	中川太三郎	燃料屋
27	前田幸一郎	瓦屋
28	大倉和夫	大工

(表3) 太子講の講員と職業

講員のほとんどが職工であり、多くが瓦屋であることが分かる。山田五郎左衛門・伝蔵に関して、現在多賀町に山田姓は存在しないが、昭和中期までは、町内に所在する圓滿寺の住職が山田姓であっ

たことからこの二名は圓滿寺の僧侶であると推定される。

また、講員数に注目すると、文政七年時点では七名で講を行っている。そこから少しずつ増加し、明治一四年（一八八一）八月から一六年七月の一名を増加のピークとして、その後減少していき平成九年（一九九七）以降は三名となっている。話者によると平成一六年にさらに一名が脱退し、二名で講を運営することは困難であるため太子講が解散となった。

ほかに、太子講の様子が分かるものとして、大正一一年から昭和一五年（一九四〇）までの帳簿が記載された『太子講宿順番帳』の昭和一二二年（一九三七）の項目には注意書きがされており次のようにある。

本年度ヨリ会席を料理店ニ

於而相勤め自費一円八十錢ツ、

支出スルコト但シ内膳分は八十錢トス

右之通改正相末候テ也

昭和一二年から集会で出される料理を料理店に依頼していることが分かる。また、昭和三二年（一九五七）から五一年（一九七六）までの支出を記した『太子講宿順番帳』の昭和三七年（一九六二）の項目では次のような但し書きがある。

太子講改革ノ件

当太子講ハ敬神ト相互

親睦ノ為メニ毎年一回

（二月十四日）に会合スル

会席ハ順番ニ交互と

シテ賄ヒハ左記ノ通り

限定シ相互ニ華美と

ナラヌ様ニ心掛ケ継続

出来ル様ニスルコト

左記

作り、煮付、茶碗蒸

カヤク飯の四点

右必ズ厳守スルコト

昭和三十七年一月二十四日

以上

太子講は敬神と講員の親睦会のために一月一四日に行われており、会席の当番は交互に行っていること、そして会席の料理は作り・煮付け・茶碗蒸し・かやく飯が出されていたことが分かる。また、華美にならないように心がけることが書かれている。これについて

近江八幡市多賀町『太子講文書』について

当時を知る話者によると、講員が毎年会席の料理を前年より少しずつ良くしていった結果、人数が減る中で無理が生じ始めていた。今後も太子講を続けるため、無理のない講の運営ができる取り決めを作ったのだという。

こうした柔軟でありながらも規則をしつかりと定めた運営もあり、その後定期的に伊勢神宮や愛宕神社、願成就寺への参詣を行い、また、構で伝承される聖徳太子画像の修復なども行いながら平成一六年まで太子講が続いた。

三 おわりに

以上のことから、多賀町の太子講は職人を広く受け入れる協同組合的な性質を持っていることが分かった。また、講の人数が明確に記されているため、太子講の講員が明治一四年まで増加していき、明治二六年頃から減少していったことが分かった。このことから、多賀町の工房の数も明治一四年から一六年頃が最も多かったと推測される。ほかに、講の年会で出される料理も取り決められており、講の状況の変化に合わせて規定も変更するなど、柔軟かつ厳正な運営を行っていたことが分かった。

このような、江戸時代から現代までの太子講の様子が連綿と記された資料は少なく、当時の職人の日常生活や、職工を取り巻く状況

の変化を知るうえで貴重な資料である。

本稿作成にあたり、話者である前田幸一郎氏・前田秀雄氏には当時の太子講の様子や多賀町の変化について詳細にお教えいただき、大変お世話になった。また、太子講文書を管理している近江八幡市の烏野氏には文書の閲覧や資料の照会でお世話になった。記して感謝申し上げたい。

【話者】

前田幸一郎 一九四八年生まれ
前田秀雄 一九五〇年生まれ

【註】

- (1) 近江八幡市史編集委員会編・刊『近江八幡の歴史 第二巻 匠と技』二〇〇六年
- (2) 西連寺匠『八幡瓦工房の職人組織と太子信仰』（帝塚山大学奈良学総合文化研究所編・刊『日本文化史研究』五三号 二〇二二年）
- (3) 表は註(2)に掲載したものから引用した。